

# 第9期報告書

平成21年12月1日から平成22年11月30日まで



株式会社サーラコーポレーション

証券コード:2734

株主の皆さまにおかれましては、平素より当社グループにご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。

第9期(平成21年12月1日から平成22年11月30日まで)の概況及び今後の施策についてご報告申しあげます。

少子高齢化社会の進行やお客さまのライフスタイル・価値観の多様化、成熟化、環境に対する意識の高まりなど経営を取り巻く環境は大きく変化し、新たな顧客価値を創造することが企業に求められています。

当期、当社グループは「サーラプラザ浜松」並びに「サーラプラザ磐田」のオープン、統合顧客システムの運用開始などのインフラ整備とともに、環境・新エネルギーなど新たな事業機会の創出に取り組み、お客さまへのサービスを充実するための基盤を整えました。

今後、当社グループは一丸となってこれらの基盤を最大限活用するとともに、社会の変化を見据えて策定した第4次中期経営計画(平成23年11月期～平成25年11月期)の達成に向けて全力で取り組むことにより、企業価値を高め、社会に貢献し続けていけるものと確信しております。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長

神針吾郎

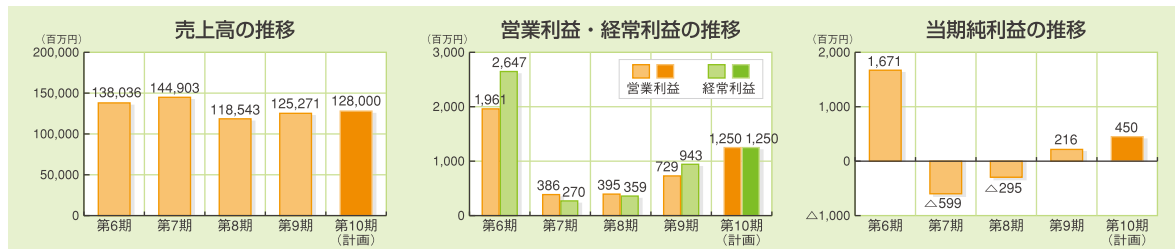


## 当期業績

当期の業績につきましては、主力のエネルギーサプライ&ソリューション事業において、事業強化のため平成21年7月に連結子会社を1社加えたことによるLPガス・石油製品の販売数量の増加、カーライフサポート事業における輸入車販売台数の増加などにより、売上高は125,271百万円(前期比5.7%増)となりました。

原料価格が前年に比べ高い水準で推移したことから、売上原価は96,455百万円(前期比6.7%増)、売上総利益は28,815百万円(前期比2.4%増)となりました。販売費及び一般管理費は、平成21年7月に加えた連結子会社の通年稼働により、28,086百万円(前期比1.3%増)となりました。

以上により、営業利益は729百万円(前期比84.4%増)となりました。経常利益は持分法による投資利益の増加などにより、943百万円(前期比162.9%増)、当期純利益は216百万円(前期は当期純損失295百万円)となりました。



## サーラコーポレーション第4次中期経営計画

当社グループでは、グループの総合力を最大限に発揮し、これまで培ってきたお客さまとの信頼関係を一層強固なものにするとともに、環境の変化を捉えた新分野・成長分野への事業に注力することで、さらなる成長を目指しています。これらの施策を実現すべく、サーラコーポレーション第4次中期経営計画(平成23年11月期～平成25年11月期)を策定しました。

### 5つの基本方針

#### ① グループの経営力強化

グループの本部機能を強化することにより、スピーディーな意思決定と確実な執行を実現します。また、グループ構造を再編することにより、効率的で収益力の高い経営体質を構築します。

#### ② お客さま志向の追求

「暮らしといえばサーラ」「まずはサーラに相談しよう」とお客さまから信頼され、選ばれる企業グループを目指し、既存事

業の強化に取り組みます。さらにエネルギー部門で構築した統合顧客システムの活用などにより、暮らしにおけるお客さまの多様なニーズに対応した商品・サービスの提案を行います。

#### ③ 新分野・成長分野での事業展開

地球環境問題、少子高齢化社会、成熟したマーケットをビジネスチャンスと捉え、ストックビジネスを強化し、将来の収益の柱として育成します。

#### ④ 社員の活躍・成長の実現

人材育成プログラムの強化を中心に、マンパワー最大化につながる仕事と組織の見直しや、社員の働きがいにつながる人事制度の展開により、社員の活躍と成長を実現します。

#### ⑤ 社会的責任の遂行

コンプライアンス、リスクマネジメントの推進を通し業務の適正を確保するとともに、環境活動や地域社会に貢献する取り組みを推進します。

### 目標とする経営指標

平成25年11月期の売上高経常利益率3%以上を目標としております。

※第4次中期経営計画に基づくセグメント別の経営戦略につきましては、P.3～P.5事業セグメント別の概況に一部を記載いたしております。

# 事業セグメント別の概況

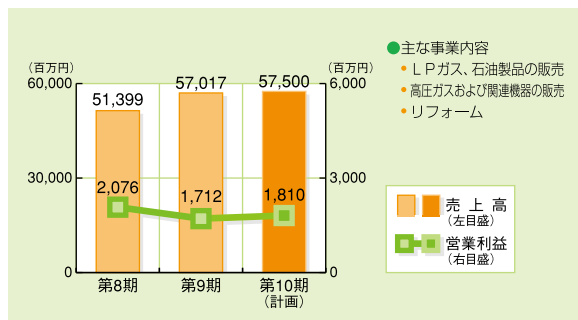
## エネルギーサプライ&ソリューション事業

売上高 57,017百万円 (前期比10.9%増)  
 営業利益 1,712百万円 (前期比17.5%減)

平成21年7月に、事業強化のためグッドライフサーラ関東株式会社を連結子会社化したことなどが寄与し、LPGガスの販売数量233千t(前期比10.4%増)、石油製品の販売数量147千kl(前期比1.5%増)となり、売上高は増加しました。利益面では、営業費用の削減に努めたものの、原料価格が前年に比べ上昇し売上原価が増加したことにより、営業利益は減少しました。

今後の戦略としましては、統合顧客システムの活用によりお客さま一人ひとりに最適な商品・サービスを提供するとともに、6店舗となったサーラプラザを接点にこれまで築いてきたお客さま基盤を一層強固なものとしします。

太陽光発電や家庭用燃料電池など、環境・新エネルギー関連の営業強化並びにエネルギー診断サービスを中心とするエネルギーの総合的な提案体制を構築するとともに、各事業会社がそれぞれ展開しているリフォーム事業のプラットフォームを統一し「サーラのリフォーム」として提案するなど、新分野・成長分野にグループ一体となって取り組み、新たな収益の柱として育てます。



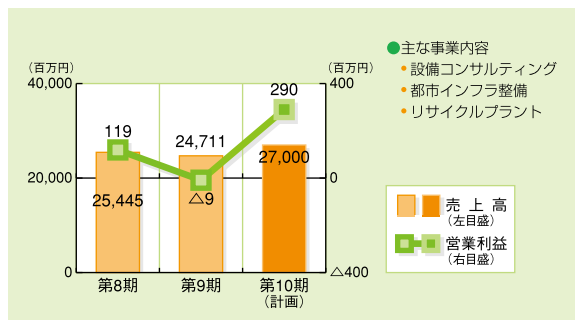
## エンジニアリング&メンテナンス事業

売上高 24,711百万円 (前期比2.9%減)  
 営業損失 9百万円 (前期は営業利益119百万円)

設備・土木・建築の各分野において受注の確保に努めましたが、取引先における設備投資の抑制の影響を受けたことなどにより、売上高は減少し営業損失を計上することとなりました。

今後は、これまで培ってきた技術と顧客信用力を活かした事業の拡大、並びに成長が見込まれる環境・新エネルギー関連分野へエネルギーサプライ&ソリューション事業と連携して積極的に取り組むことにより、収益基盤を強化していきます。

(注) 従来、ガス配管工事事業につきましては、「エネルギーサプライ&ソリューション事業」に含めて表示していましたが、当期より所属する区分を「エンジニアリング&メンテナンス事業」に変更し、前期との比較にあたっては前期実績値を変更後の区分に組み替えて行っています。



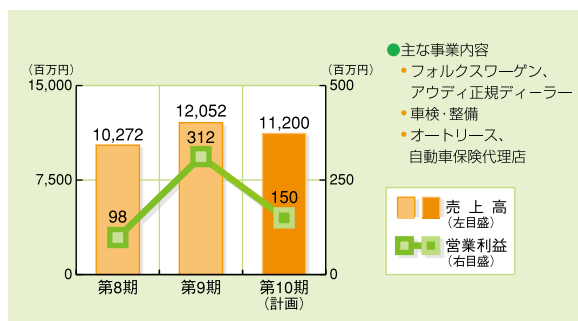
## カーライフサポート事業

売上高 12,052百万円（前期比17.3%増）  
営業利益 312百万円（前期比216.7%増）

これまでに購入されたお客さまへの積極的な営業活動の実施や、エコカー減税対象車の投入に加え、エコカー補助金など政策効果も寄与し、フォルクスワーゲン車、アウディ車とも大幅に販売台数が増加し、売上高、営業利益ともに増加しました。

平成23年度は特需の反動により販売台数の減少が予測されますが、フォルクスワーゲン、アウディが推進するエコカー戦略の拡大を背景に、高いブランド力を活かした販売活動を展開していきます。

また、アフターセールスの充実、並びにお客さま視点に立った業務フローの構築を行い、高い顧客満足度を維持するとともに、店舗網の拡充などにより事業規模を拡大し、国内輸入車市場でのシェアアップに努めます。



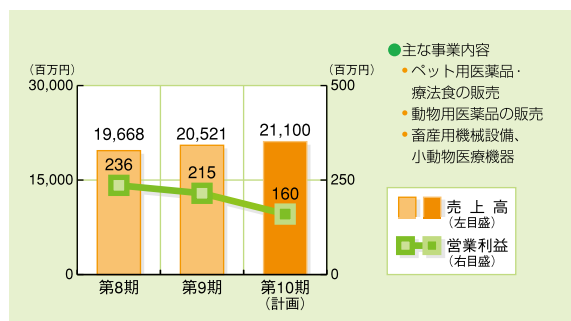
## アニマルヘルスケア事業

売上高 20,521百万円（前期比4.3%増）  
営業利益 215百万円（前期比8.6%減）

ペット関連分野において、ペット向け医薬品に加え、療法食の販売が好調に推移したことにより、売上高は増加しました。利益面では、ペットビジネスの主要マーケットである首都圏への進出、並びにインターネットを活用した療法食販売の新システム関連の投資により、営業利益は減少しました。

今後は、首都圏の営業をさらに強化するとともに、オリジナル商品の提案、新システムの推進による動物病院とペットオーナーの利便性の向上など、独自性の高い営業活動を展開します。これにより、3年後に売上高を当期比10%増加させ、ペット向け医薬品のマーケットにおける市場占有率をさらに高めます。

また、商品・在庫管理の徹底、営業拠点の統廃合によるコスト削減に取り組むとともに、購買の強化により収益力の向上を図ります。

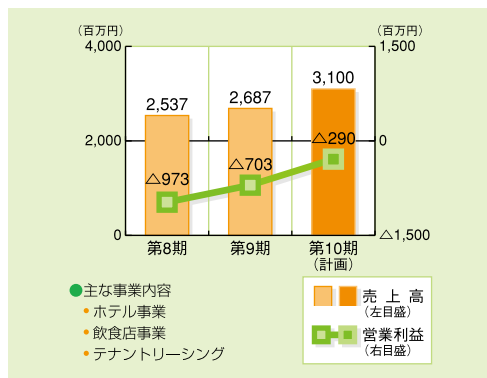


## ホスピタリティ事業

売上高 2,687百万円（前期比5.9%増）  
 営業損失 703百万円（前期は営業損失973百万円）

豊橋駅前に開業した商業施設コロシアベニューのサブリース事業開始に伴う増収や、ホテルアークリッシュ豊橋を中心とした積極的なイベントの開催などの販促活動を強化した結果、売上高は増加しました。利益面では、減価償却が進むなか営業費用等の削減に努めたことにより、営業損失は縮小しました。

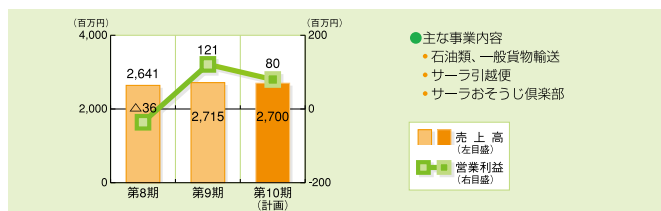
ホテルアークリッシュ豊橋では、お客さま全員が感動するプライダルなど、魅力的な商品・サービスの開発に尽力します。また、ホテル・外食部門すべてにおいて、お越しいただいたお客さまが満足し、くり返しご利用していただけるサービスの提供に努めます。ホテルアークリッシュ豊橋の事業モデルを確立し、段階的に売上規模の拡大と収益構造の改善を図ることにより、平成25年度の事業の黒字化を目指します。



## ロジスティクス事業

売上高 2,715百万円（前期比2.8%増）  
 営業利益 121百万円（前期は営業損失36百万円）

石油類などの輸送量が増加したこと、サーラ引越便など地域に密着した生活関連サービスに注力したことなどにより、売上高は増加しました。また、原価管理の徹底に努めたことなどから、営業損失から営業利益に転じました。

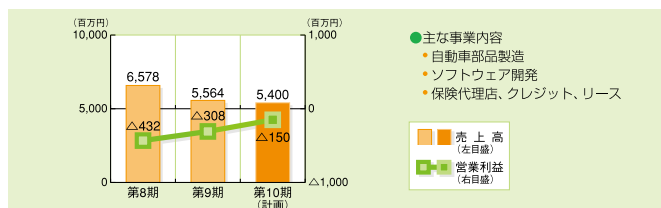


## その他の事業

売上高 5,564百万円（前期比15.4%減）  
 営業損失 308百万円（前期は営業損失432百万円）

自動車部品製造事業では、主要取引先の減産の影響を大きく受けました。また、ソフトウェア開発事業においても、受注先企業における設備投資の減少の影響を受けたことにより、売上高は減少しました。利益面では、原価管理の徹底に取り組んだことにより、営業損失は縮小しました。

今後は、成長が見込まれる新分野への挑戦、新規取引先の開拓とともに、生産性の向上並びにコスト削減に努め、売上規模の拡大や収益構造の改善を図ります。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	当 期 (H22.11.30現在)	前 期 (H21.11.30現在)
(資産の部)		
流動資産	34,818	35,549
現金及び預金	6,894	9,028
受取手形及び売掛金	18,593	17,553
商品及び製品	3,583	3,586
仕掛品	1,696	1,575
原材料及び貯蔵品	150	137
その他	3,898	3,667
固定資産	62,731	63,639
有形固定資産	50,813	51,648
建物及び構築物	19,479	18,750
機械装置及び運搬具	2,581	3,116
導 管	2,543	2,859
土 地	22,558	22,611
建設仮勘定	38	74
その他	3,612	4,235
無形固定資産	3,513	3,533
投資その他の資産	8,405	8,458
投資有価証券	3,394	3,383
繰延税金資産	2,253	2,142
その他	2,757	2,932
資産合計	97,549	99,188

単位：百万円

科 目	当 期 (H22.11.30現在)	前 期 (H21.11.30現在)
(負債の部)		
流動負債	44,945	44,868
支払手形及び買掛金	14,268	14,396
短期借入金	18,790	19,105
1年内返済予定の長期借入金	3,508	2,602
賞与引当金	1,203	1,270
その他	7,176	7,493
固定負債	26,121	27,722
長期借入金	16,679	18,181
退職給付引当金	5,424	5,323
その他	4,018	4,217
負債合計	71,067	72,591
(純資産の部)		
株主資本	25,168	25,341
資本金	8,025	8,025
資本剰余金	9,019	9,019
利益剰余金	9,073	9,242
自己株式	△ 949	△ 945
評価・換算差額等	128	115
少数株主持分	1,185	1,140
純資産合計	26,482	26,597
負債純資産合計	97,549	99,188

## 連結損益計算書

単位：百万円

科 目	当 期 (自H21.12.1 至H22.11.30)	前 期 (自H20.12.1 至H21.11.30)
売上高	125,271	118,543
売上原価	96,455	90,413
売上総利益	28,815	28,129
販売費及び一般管理費	28,086	27,734
営業利益	729	395
営業外収益	725	520
営業外費用	510	557
経常利益	943	359
特別利益	171	123
特別損失	461	527
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失	654	△ 44
法人税、住民税及び事業税	393	441
法人税等調整額	△ 51	△ 128
少数株主利益又は少数株主損失	95	△ 62
当期純利益又は当期純損失	216	△ 295

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科 目	当 期 (自H21.12.1 至H22.11.30)	前 期 (自H20.12.1 至H21.11.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,566	8,831
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,208	△ 7,056
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,492	153
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 2,134	1,929
現金及び現金同等物の期首残高	9,028	7,099
現金及び現金同等物の期末残高	6,894	9,028

### 成熟化、環境に対する意識の高まりなど社会の変化を見据えた取り組み

成熟化、少子・高齢化、環境に対する意識の高まりなどが進む社会の中、サーラコーポレーショングループでは、グループの総合力を駆使し、お客さまのニーズに対応する商品・サービスの提供を可能にするためのインフラ整備、新エネルギー関連事業への取り組み強化など、社会の変化を見据えた基盤づくりに取り組みました。

### グループ連携による社会の変化を見据えた基盤づくり

実例

お客さまサービスの拠点

## サーラプラザ浜松・磐田 オープン

ガステックサービス株式会社、株式会社リビングサーラ、並びに関係会社の中部ガス株式会社は、お客さまのライフスタイルを豊かに創造する「サーラプラザ」の展開を進めています。前期の「サーラプラザ豊橋」に続き、当期は平成22年11月に「サーラプラザ浜松」、「サーラプラザ磐田」がそれぞれオープンし、合計6店舗となりました。

体験型のショールームに加え、料理教室、カルチャースクールの開講、セミナールームの無料開放などにより、地域のお客さまの身近な交流の場となっています。また、グループの提供する商品・サービスの総合窓口としての機能も果たしています。

サーラプラザ浜松の誕生にあたりましては、東海地震を想定した高い耐震性とデザイン性を両立した耐震補強工法を採用し、既存の建物をリファインすることにより、環境負荷低減も実現しました。



サーラプラザ浜松



料理研究家コウケンテツさんによるクッキングショー



サーラプラザ浜松1階フロア



サーラプラザ磐田オープンイベント



実例  
2

## 統合顧客システムの運用開始

ガステックサービス株式会社は、中部ガス株式会社との間で開発を進めてきました統合顧客システムの運用を開始しました。これによりお客さま情報の一元管理による業務の効率化、並びに顧客データベースの相互利用によるお客さまサービスの充実が図られました。将来的にはグループ各社が活用できるさまざまな情報を追加することにより、グループ統合顧客システムとしての運用を目指しています。

実例  
3

## 環境・新エネルギー関連事業への取り組み強化

ガステックサービス株式会社と設備・土木事業を営む株式会社中部は、中部ガス株式会社と連携して太陽光発電をはじめとした新エネルギー関連の営業から施工、アフターメンテナンスまで一貫したトータルホームファシリティサービスの提供を開始しました。

企業価値の向上

社会への貢献

お客さまとの信頼関係  
の一層の強化

新分野・成長分野  
の事業への注力

より良い商品・  
サービスの提供

# 会社の概要および株式の状況

(平成22年11月30日現在)

## ■ 商号 株式会社サーラコーポレーション

■ 設立 平成14年5月1日

■ 資本金 80億2,500万円

■ 証券取引所 東京証券取引所 市場第一部  
名古屋証券取引所 市場第一部

■ 役員

代表取締役会長	中村捷二
代表取締役社長	神野吾郎
常務取締役	松井和彦
常務取締役	原田保久
取締役	角谷歩
取締役	磯村直英
取締役	一柳良雄
取締役	石黒和義
監査役(常勤)	鈴木洋二
監査役	山崎康夫
監査役	中山正邦
監査役	杉井孝

■ 従業員数 2,808名(連結)

## ■ 連結子会社

### エネルギーサプライ&ソリューション事業

ガステックサービス(株)  
三河湾ガスターミナル(株)  
(株)日興  
神野オイルセンター(株)  
(株)リビングサーラ  
グッドライフサーラ関東(株)

### エンジニアリング&メンテナンス事業

(株)中部  
神野建設(株)  
中部菱光コンクリート工業(株)  
西遠コンクリート工業(株)  
(株)中部技術サービス  
中設工事(株)  
中部三洋システム(株)

### カーライフサポート事業

サーラカーズジャパン(株)

### アニマルヘルスケア事業

(株)アスコ  
大和医薬品工業(株)

### ロジスティクス事業

サーラ物流(株)

### ホスピタリティ事業

ガステックサービス(株)

### その他の事業

ガステックサービス(株)  
新協技研(株)  
テクノシステム(株)  
中部クレジット販売(株)  
サーラフィナンシャルサービス(株)  
(株)サーラビジネスソリューションズ

■ 発行可能株式総数 ..... 120,000,000株

■ 発行済株式総数 ..... 40,338,708株

■ 株主数 ..... 3,853名

## ■ 大株主

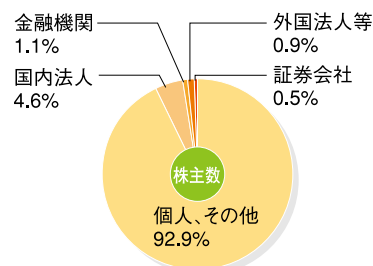
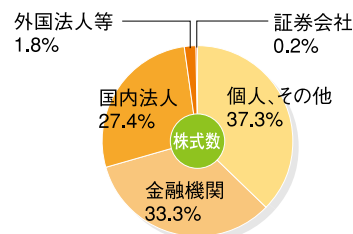
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
中部瓦斯株式会社	5,921	15.34
サーラコーポレーション従業員持株会	1,937	5.01
中部ガス不動産株式会社	1,833	4.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社*	1,823	4.72
ガステックサービス共栄会	1,699	4.40
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,560	4.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,498	3.88
株式会社静岡銀行	1,495	3.87
株式会社三井住友銀行	1,197	3.10
株式会社みずほ銀行	957	2.47

\* 中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメント株式会社信託口

● 当社は自己株式1,742千株を保有していますが、上記大株主から除いています。

● 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

## ■ 所有者別株式分布



## 株主メモ

### ■ 事業年度

12月1日～翌年11月30日

### ■ 定時株主総会

毎年2月中

### ■ 基準日

定時株主総会の議決権・期末配当 11月30日

中間配当 5月31日

### ■ 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

〒105-0014 東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社

### ■ 株主名簿管理人事務取扱場所

〒460-8685 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号

中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部

### ■ 郵便物送付先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

### ■ 電話照会先

☎0120-78-2031

### ■ 取次窓口

中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店

日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

### ■ 公告方法

電子公告(当社ホームページに掲載します)

<http://www.sala.jp/>

ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

### ■ 単元株式数

500株

## 株主優待のご案内

当社では、日頃の株主の皆さまのご支援に対する感謝の気持ちを表すとともに、当社グループへの一層のご理解を賜りたく、以下のとおり株主優待制度を実施しています。

### ■ 対象

毎年11月末日現在における500株以上所有の株主

### ■ 内容

ご所有の株式数に応じて、下表の金額分の株主優待券をお届けしています。株主優待券の有効期限は一年間となります。

所有株式数	優待内容
500株以上 5,000株未満	1,000円分の株主優待券
5,000株以上 10,000株未満	5,000円分の株主優待券
10,000株以上	10,000円分の株主優待券

### ■ ご利用方法

株主優待券は、当社グループのガステックサービス(株)が販売するガス機器、同社が運営するガソリンスタンドでの給油・洗車、ホテルアークリッシュ豊橋での宿泊、同ホテル内のレストランでの飲食などにご利用いただけます。

ご利用店舗が近くにない株主さまには、株主優待券相当分の商品をお送りさせていただきます。



キッチン飛騨ビーフカレー  
価格3,500円(送料・税込)  
3缶入り



手延べそうめん  
価格3,000円(送料・税込)  
20食入り



渥美温室メロン  
価格5,000円(送料・税込)  
1箱2玉入り



お問い合わせ先

株式会社サーラコーポレーション 総合企画部 広報・ブランドグループ ☎ 0532-51-1184